

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果(概要)

4月17日(木)全国学力・学習状況調査が6年生対象に行われました。各教科(国語・算数・理科)の調査結果と児童質問紙調査結果をお知らせします。

【国語科より】

読むこと	
結果のポイント	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることにより引き続き課題がある。
具体的な設問例 大問3三(1)	資料を基に言葉の変化について話し合っている場面で、発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する。

【算数科より】

変化と関係
結果のポイント

伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことはできているが、「10%増量」の意味を解釈し、「増加後の量」が「増加前の量」の何倍になっているかを表すことに課題がある。

具体的な設問例 大問4(1)

新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選択する。

具体的な設問例 大問4(4)

10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選択する。



解答の分析(全国)
正答率 全国より -1.1%
無解答率 本校1.0% 全国2.6%

アと解答しているもの	82.9%
イと解答しているもの	3.8%
ウと解答しているもの	7.5%
エと解答しているもの	1.4%
上記以外の解答	1.8%

○誤答の解説
ウと解答した児童は、ハンドソープの液体の量のほかに、あさひさんが1日にプッシュする回数の平均が必要であると判断していると考えられる。

解答の分析(全国)
正答率 全国より -13.0%
無解答率 本校3.8% 全国4.1%

正答	2 1.1
誤答例	1 0.1 3 10

○誤答の解説
1「10%増量」について、百分率で表された10%を0.1と捉えることはできているが、「増加後の量」が「増加前の量」の110%になることを捉えることはできないと考えられる。又は、「増加後の量」が「増加前の量」の1.1倍と捉えることができないと考えられる。
3「10%増量」について、「増加後の量」は「増加前の量」の10倍とも捉えていると考えられる。

授業改善のポイント
基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが重要である。具体物などを使って視覚的に理解できるよう指導していく。



正答率 全国より -2.6%
無解答率 本校1.0% 全国3.4%

解答の分析

【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する。	1 ①この本を読むとお気づきになると思います ……5.2%
【資料1】の①～④のどれが適切か。	2 ②「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています ……33.8%
	3 ③コミュニケーションの使い違いを放置しておくわけにもいきません
	4 ④「言葉は生きている」とも言われます ……16.4%

○正答の「3」を選択した児童は、田中さんが、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「コミュニケーションの使い違いを放置しておくわけにもいきません。」と書かれていることを結び付けていると捉えている。

○誤答の「2」を選択した児童の中には、「人によって言葉の意味のどちら方ががうごとを「本来の意味」「本来とは違う使い方」であると考え、複数の資料を結び付けようとしたが、必要な情報を整理し切れなかった児童がいたと考えられる。

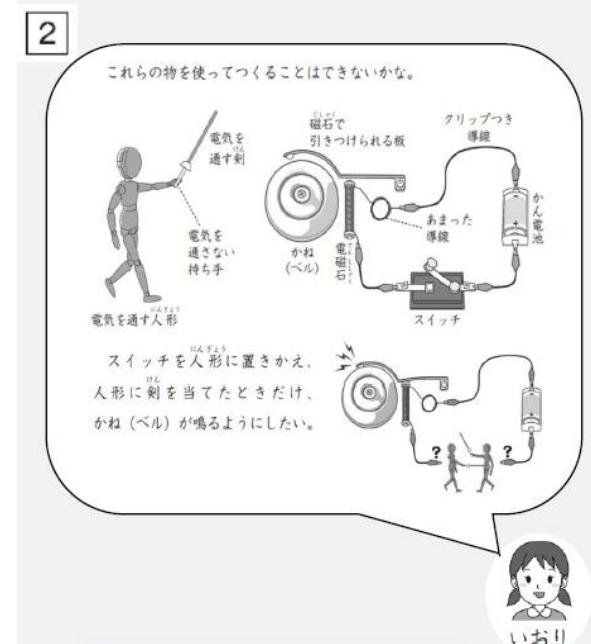
指導改善のポイント

必要な情報を見付けるためには、文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。目的に応じて必要な情報かどうかを確かめたり、情報と情報がどのような関係にあるのかを考えたりしながら読むことができるよう指導していく。



【 理科より 】

エネルギー	
結果のポイント	電気が通る回路のつくり方について理解し、表現することに課題がある。
具体的な設問例 大問2(2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ問題



解答の分析		正答率 全校と同値 無解答率 本校0% 全国0.6%
解答類型	反応率	
1	7.2%	
2	18.8%	
3	30.0%	
4	43.1%	
上記以外	0.3%	

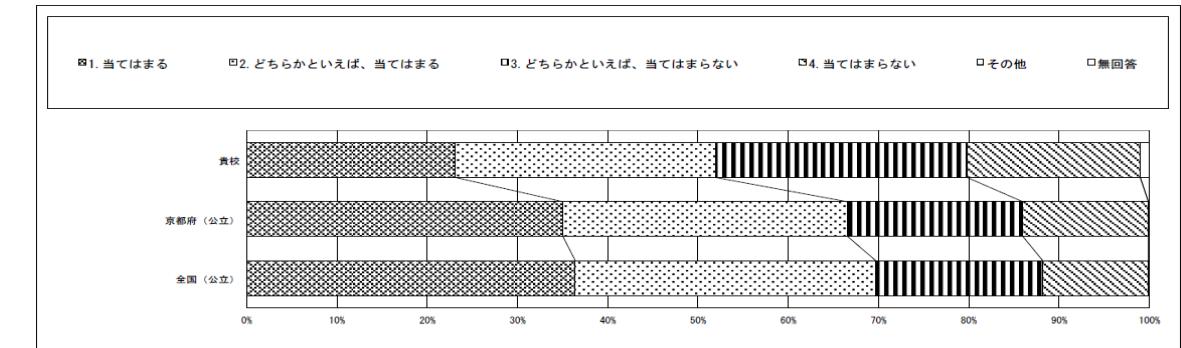
解答類型2や3のように解答した児童は、人形Aと人形Bを含む回路を構想することはできている。しかし、「電気を通さない持ち手」が回路の一部に含まれることで、回路の一部が切れて電気が通らないということを理解し、表現することができていないと考えられる。

解答類型2や3のように解答した児童は、人形Aと人形Bを含む回路を構想することはできている。しかし、「電気を通さない持ち手」が回路の一部に含まれることで、回路の一部が切れて電気が通らないということを理解し、表現することができていないと考えられる。

授業改善の
ポイント

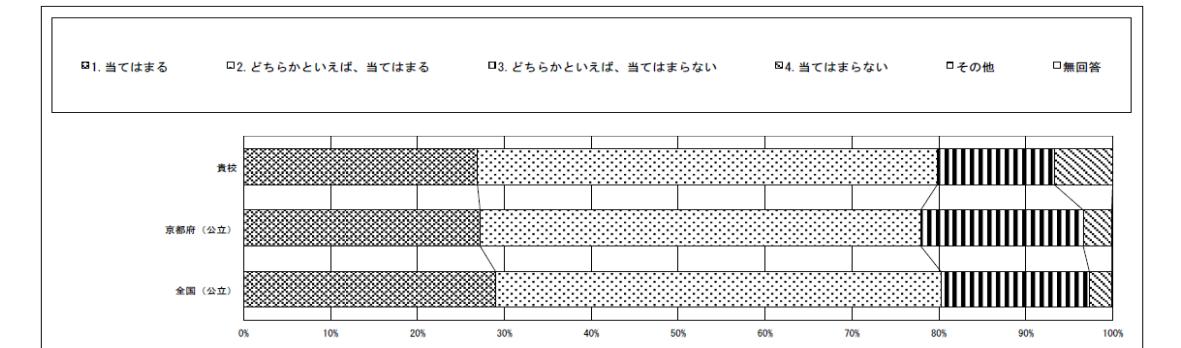
解決したい問題を見いだすことや、学習を通して得た知識を活用して、理解を深めることが大切である。また、児童が明確な目的を設定し、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正するといった活動の充実を図ることで、学んだことの意義を実感できるようにすることが重要である

【児童質問紙調査より】



「読書は好きですか」という質問では、「当てはまる」と答えた児童が約52%、「当てはまらない」と答えた児童が約47%でした。この結果は、全国平均(約70%が「好き」と比べると、読書への関心がやや低い傾向にあることが分かりました。読書は、語彙力や表現力を高めるだけでなく、想像力や思考力、感受性を育む大切な学びの一つです。子どもたちが本に親しみ、読書を楽しむことができるよう、「図書室の利用促進とおすすめ本の紹介」、「読み聞かせや読書週間などの取組の充実」、「教科と関連づけた読書活動の展開」などを行っていこうと考えています。読書は、子どもたちの心を豊かにし、未来への力となるものです。学校と家庭が連携しながら、子どもたちの読書習慣を育んでいければと願っております。

質問番号	質問事項
(32)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
選択肢	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 その他 無回答
貴校	26.9 52.9 13.5 6.7
京都府（公立）	27.2 50.7 18.7 3.3
全国（公立）	29.0 51.3 17.1 2.6



「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対する児童的回答で、「当てはまる」と答えた児童が約80%を占めており、多くの子どもたちが授業の中で主体的に学ぼうとする姿勢を持っていることが分かりました。一方で、「あてはまらない」と答えた児童も約20%おり、すべての児童が自信を持って学びに向かえているわけではないことも見えてきました。この「自ら考え、取り組む力」は、これから社会で求められる重要な力です。学校では、子どもたちが自分の考えを持ち、試行錯誤しながら学びを深められるよう、「課題解決型の授業の充実」、「話し合いや振り返り活動の導入」、「自分の考えを表現する機会の確保」など授業改善を図っていきます。

質問番号	質問事項											
(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	30.8	43.3	20.2	5.8							0.0	0.0
京都府（公立）	31.8	43.8	18.6	5.7							0.0	0.1
全国（公立）	32.6	45.5	17.1	4.7							0.0	0.1

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に対する児童の回答では、「当てはまる」と答えた児童が約74%にのぼり、多くの子どもたちが、異なる考えに触れる前向きに捉えていることが分かりました。これは、他者との違いを受け入れ、対話を通じて学びを深める力の表れであり、これから社会において非常に重要な資質です。一方で、「当てはまらない」と答えた児童も約26%おり、意見の違いに対して戸惑いや抵抗を感じている子どももいることが分かります。学校では、話し合いやグループ活動を通じて、互いの考えを尊重しながら学び合う機会を大切にしています。自分と違う意見に触ることで、新しい視点を得たり、自分の考えを深めたりする経験を積み重ねています。子どもたちが多様な考え方で触れながら、自分の考えを広げていけるよう指導を図っていきます。

【 全体を通して本校の成果と課題 】

本校では、「なりたい自分に向かって 学び合い しなやかに生きる子の育成」を学校教育目標とし、保護者や地域の皆様の協力を得て、教職員が一丸となって取組を進めています。

このたび実施された児童質問紙調査では、子どもたちの生活や学習に対する意識、学校での人間関係など、さまざまな側面が見えてきました。回答の一つ一つから、子どもたちが日々どのように感じ、考え、学んでいるのかが垣間見えました。本校では、これらの結果を受け止めながら、子どもたちがこれからの社会を生き抜くために必要な「学びの力」を育していくことを大切にしています。そのなかで、今回の学習状況調査の結果を踏まえ、特に本校が育てたい資質・能力である『問い合わせをもつ力・見通す力・伝え合う力』の育成を図っていきます。

問い合わせをもつ力：自分の中にある「なぜ？」を大切にし、学びの出発点をつくる力

見通す力：目的を持ち、先を見ながら自分の学びを組み立てていく力

伝え合う力：自分の考えを整理し、他者と共有しながら新たな気づきを得る力

これらの力は、教科の枠を越えて、子どもたちの学びの土台となるものです。調査結果からは、子どもたちが自分の考えを持ち、他者と関わりながら学ぼうとする姿勢が育ちつつある一方で、まだ十分に自信を持っていない子どももいることが分かりました。学校では、日々の授業や活動の中で、子どもたちが安心して自分の思いを表現し、仲間とともに学びを深められるような環境づくりに努めています。ご家庭でも、ぜひお子さまの「気づき」や「考え」に耳を傾け、対話を通じてその力を育んでいただければと思います。子どもたちが自分らしく、そして力強く学び続けていけるよう、今後ともご支援をよろしくお願ひいたします。

【 保護者の皆様へ 】

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの力をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てではなく、また順位を競うものではありません。学校・家庭・地域で、地道に積み重ねていくことで学力は定着していきます。子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をいただきありがとうございます。

